

展示室 1 人物を描く



バーン=ジョーンズ
「フローラ」

絵画として描かれる対象には、風景や風俗、歴史、物語、静物などとともに人物があります。なかでも特定の人物を描いた肖像画は古くから描かれ、人気の画家に自分や家族を描いてもらうことは特権階級にとってのステータスともなりました。18 世紀のイギリス画壇を代表する画家であるレイノルズは、依頼人たちが大勢押しかけ門前に市をなした、と伝えられる「行列のできる肖像画家」でした。当館の収蔵作品でもひととき目立つ「エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像」はその代表作。この作品のような肖像画を筆頭に、聖書、寓話や風景の添景なども含め、人物が描かれたイギリスの作品を特集します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィリアム・ブレイク	『ヨブ記の挿絵』から 2 点 「この時、主はつむじ風の中からヨブに答えられた」「繁栄を回復したヨブとその妻」	1825	ラインエングレーヴィング・紙/ポートフォリオ
ウィリアム・ホーガース	卵を割るコロンプス	1752	エッチング・紙
ウィリアム・ホーガース	「選挙」第三図 投票日		エッチング・紙
トマス・ローランドソン	北ウエールズ、カマーゼンの風景、教会へ向かう人々	1790 年代初頭	水彩・紙
トマス・ローランドソン	ヘント付近、ローエン駅に着く馬車	1790 年代	水彩・紙
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ	自画像		エッチング・紙
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ	ジェームズ・クラーク・フックの肖像		エッチング・紙
サー・トマス・ローレンス	ラビー・ウィリアムズ牧師	1790 代初頭	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	キティ・フィッシャーの肖像習作	1759～67 頃	油彩・キャンバス
ウィリアム・ホーガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758～60 頃	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	フローラ	1868～84	油彩・キャンバス
アルバート・ジョセフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンバス
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ		油彩・キャンバス
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘		油彩・キャンバス
ジョン・セル・コットマン	ヤーマス・ビーチ	1830 以前	エッチング・紙
ジョン・セル・コットマン	ハウデン共住聖職者教会の東端、ヨークシャー		エッチング・紙
デイヴィッド・コックス	川辺の騎手と人物	1850	水彩、鉛筆、チョーク・紙
トマス・ガーティン	エア川沿いのカークストール修道院	1824	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	タイン川沿いのニューカースル	1826	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・キャンバス

展示室2 安井曾太郎と近代美術



安井曾太郎
「初秋の北京」

昭和を代表する洋画家、安井曾太郎（1888 - 1955）の作品には、版画もあります。今回は、彼が自ら彫版した銅版画に加え、彼が残した唯一の木版画集すべてをご覧いただきます。その木版画集は、彼が原画を描き、別の人が彫版しました。中でも「椅子に凭れる女」と「果物」とは、日本を代表する木版画家、平塚運一が版を彫ったものです。それらは洋画と木版画の二大巨匠の共作といってもいいでしょう（なお、会津の木版画家、斎藤清は、「正月娘姿」を見て木版画の魅力にとりつかれ、木版画家になることを決意したそうです）。

安井は、木版画の原画を描くにあたって、「確実なるデッサン、整理された線の組立、色の効果的配置、出来るだけ簡単なる表現」を念頭に置きました。彼の線と色は、版というひとつの過程を経ることによってより単純化され、抽象画に通じる画面を構成することになりました。

師の浅井忠やライバルだった梅原龍三郎や安井と同じ一水会の画家らの作品もあわせて、安井曾太郎の世界をぜひお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
安井曾太郎	『安井曾太郎版画集』	1932（昭和7）～1935（昭和10）	木版・紙／ポートフォリオ
安井曾太郎	鏡	1938（昭和13）	エッチング・紙
安井曾太郎	少女と大このはづく	1939（昭和14）	石版・紙
安井曾太郎	早春		水彩・紙
安井曾太郎	公園風景	1928（昭和3）	水彩・紙
安井曾太郎	バルコニーより		水彩、鉛筆・紙
安井曾太郎	バルコニーより		水彩、鉛筆・紙
安井曾太郎	初秋の北京	1944（昭和19）	油彩・キャンバス
浅井 忠	少女の顔	1878（明治11）	木炭・紙
浅井 忠	足尾村	1884（明治17）	インク・紙
浅井 忠	綾瀬川付近	1885（明治18）	墨・紙
浅井 忠	収穫	1893（明治26）頃	油彩・紙、板
浅井 忠	水汲み		鉛筆・紙
周辺の画家たち			
石井柏亭	ピサ	1911（明治44）	水彩・紙
石井柏亭	江村（中川奥戸）	1936（昭和11）	水彩・紙
有島生馬	少女	1908（明治41）	油彩・キャンバス
山下新太郎	苔寺	1922（大正11）頃	油彩・キャンバス
梅原龍三郎	静物		油彩・キャンバス
里見勝蔵	軍人	1927（昭和2）年	油彩・キャンバス

展示室3 四季の風景



斎藤 清
「青沼、裏磐梯、会津」

ここでは今回、県内出身作家の作品から、四季の風景を描いた作品を中心にをご紹介します。人物像や抽象画にも、季節が感じられる作品、季節からインスピレーションを得て制作された作品などがあります。個性あふれる作家たちがそれぞれの作風で描いた四季の風景や風俗。わたしたちが暮らす郡山、福島県の厳しくも豊かな自然と季節の移り変わりを思いながらご覧ください。美しいふるさとの四季の風景がいつまでも変わらないように、祈りをこめて。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
湯田玉水	夏山驟雨・晩秋暮鴉		絹本墨彩二曲一双屏風
青津清喜	晩秋檜原湖	1950(昭和25)	水彩・紙
青津清喜	窓際	1950(昭和25)	油彩・キャンバス
斎藤 清	青沼、裏磐梯、会津	1955(昭和30)	木版・紙

青津清喜氏寄贈

作者名	作品名	制作年	技法・形状	
斎藤 清	早春	1990(平成2)	木版・紙	榊ホテルはまつ寄贈
福田利秋	春の小峰城	1991(平成3)	木版・紙	福田利秋氏寄贈
安藤重春	あんず	1932-37(昭和7-12)頃	絹本着色	安藤重春氏寄贈
安藤重春	みちのく(蓮田の道)	1966(昭和41)	絹本着色	
黒沢吉蔵	晩秋の山河	1975(昭和50)	紙本着色	
菊地養之助	雪野	1976(昭和51)	紙本着色	菊地一郎氏寄贈
深沢軍治	庭先植物生態学(B)	1984(昭和59)	油彩・キャンバス	
鎌田正蔵	十一月の頃	1986(昭和61)	アクリル・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
佐藤静司	風紋	1976(昭和51)	木彫	

展示室4 銅版画の魅力



駒井哲郎
「鳥と果実 (小)」

銅版画（エッチングなど）の技法は、中世のヨーロッパで発明され、画像複製や印刷技術の主流となり、オランダとの交易を通じて日本にも伝わりました。それまで、日本では木版画が主流でしたが、銅版画は細かい描線で画面が構成できることや、さまざまな技法を用いて、独特のマチエール（画肌）をあらわすことができることから、精巧で、描写力に優れた表現として、日本でも発展しました。

駒井哲郎は、日本の銅版画における革新的な画家のひとりです。彼の夢と現実が交差したような独特の世界観は、銅版画の可能性を広げました。ここでは、駒井をはじめ、近現代の国内作家に焦点をあて、銅版画の魅力をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・形状	
間部時雄	風景	1923(大正12)	エッチング・紙	
渡辺光徳	すか川なべし橋	1925(大正14)	エッチング・紙	
長谷川潔	シャトー・アヌルーの寺院	1932(昭和7)	メゾチント・紙	
松田義之	樹蔭	1937(昭和12)	エッチング・紙	
北川民次	メキシコの恋人たち	1970(昭和45)	エッチング、アクアチント・紙	
浜口陽三	黒いさくらんぼ	1963(昭和38)	メゾチント・紙	
瑛九	くちびる	1953(昭和38)	エッチング・紙	
浜田知明	アレレ・・・	1974(昭和49)	エッチング、アクアチント・紙	
浜田知明	初年兵哀歌(山を行く鉄砲隊)	1953(昭和28)	エッチング、アクアチント・紙	
菅野陽	ささえる	1957(昭和32)	アクアチント、ディープエッチ・紙	
駒井哲郎	白い黒ン坊	1950(昭和25)	アクアチント、ドライポイント・紙	
駒井哲郎	13	1959(昭和34)	エッチング、アクアチント・紙	
駒井哲郎	鳥と果実(小)	1959(昭和34)	エッチング、アクアチント・紙	
駒井哲郎	化石	1960(昭和35)	エッチング、アクアチント・紙	
駒井哲郎	暑中見舞(手)	1961(昭和36)	エッチング・紙	
駒井哲郎	花とレモン	1974(昭和49)	モノタイプ・紙	
斎藤寿一	青の中の風	1968(昭和43)	ディープエッチング、グラインダー・紙 斎藤 子氏寄贈	
加納光於	燐と花と	1961(昭和36)	エッチング・紙	
池田満寿夫	S字型のヘビ	1962(昭和37)	ドライポイント、エッチング・紙	
岩谷徹	カーニバルの乳母車	1977(昭和52)	メゾチント・紙	
中林忠良	囚われたる日々II	1974(昭和49)	エッチング、アクアチント、メゾチント、ディープエッチング、雁皮紙	
中林忠良	Position '80・腐食III	1980(昭和55)	エッチング、アクアチント・雁皮紙	
安部直人	黎明	1991(平成3)	エッチング、メゾチント・紙	

展示室4 クリストファー・ドレッサーと日本美術



クリストファー・ドレッサー
「柳編み把手付きダブル・バスケット」

スコットランドに生まれたクリストファー・ドレッサー（1834 - 1904）は、19世紀後半に英国でデザイナーとして活躍しました。日本の美術に非常に興味があったドレッサーは、1876（明治9）年来日し、4ヶ月にわたる滞在期間中に日本各地の美術工芸品の産地を訪問し、陶磁器や金属器などを研究しています。

帰国後、ドレッサーは日本の美術工芸品からの影響を自らのデザインに生かして、斬新で独創的な作品を生み出しました。たとえば龍の浮彫文様がみられる「色絵椿文龍花瓶」には、明治初期に横浜で輸出用陶磁器の窯を開いていた陶工、宮川香山の影響が強く表れているといわれています。こうしたドレッサーの活動は、英国におけるジャポニスム研究のさきがけとなったのです。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレッサー	色絵椿文龍花瓶（一对）	1886頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	染付鳥波涛文把手付鉢		磁器
クリストファー・ドレッサー	染付鳥文壺		磁器
クリストファー・ドレッサー	色絵金彩竹梅文水差		磁器
クリストファー・ドレッサー	彩釉細首水差	1879～82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉蓮花刻文皿	1879～82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉龍波涛文水差	1879～82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	褐釉瓢箪型花瓶	1879～82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	紅地彩釉壺	1879～82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉人物文扁壺	1879～82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	彩釉和風花瓶（一对）	1879～82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵蝶花鳥模様瓢箪形壺	1892～95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花鳥模様壺	1892～95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様大皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様長皿（3枚）	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様皿とボウルのセット	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きダブル・バスケット	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きケトル		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	日本風把手付き葉味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック（楕円型）		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	真鍮把手付きケトル		銅、真鍮
クリストファー・ドレッサー	孔雀象嵌模様円形皿		銅、銀、真鍮

クリストファー・ドレッサー（著）『日本 — その建築、美術、工芸』

1882年刊

クリストファー・ドレッサー（著）『デザイン研究』

1874-76年刊

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1階展示ロビー			
アントニー・ゴームリー	量子雲X X III	2000	ステンレス、スチール棒
アントニー・ゴームリー	領域X III	2000	ステンレス、スチール棒
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963(昭和38)	セメント
●1階サブエントランス			
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント
●2階展示ロビー			
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1・2		陶器
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石
堀内正和	顔	1955(昭和30)	鉄、セメント
三坂耿一郎	まとう	1967(昭和42)	ブロンズ
清水多嘉示	フランスの女	1927(昭和2)	ブロンズ
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ

細川明子氏寄贈

寄託作品

寄託作品